

「祈りの記憶を刻む」

小川洋子氏・尾崎真理子氏 対談



© 講談社



本対談の演題（「祈りの記憶を刻む」）には、「言葉を残さぬままこの世を去った、死者自身の記憶を物語にして現世に刻む」という意味と、「生きている者に残る死者の記憶を言葉にすることで、その死を刻む」という意味が、二重に含まれています。

「小説を書いたり読んだりする行為は、死と生を行き来すること」

こう語る作者の思いや実感を、『博士の愛した数式』や『密やかな結晶』など、海外でも広く浸透してきたいくつかの長編作品を取り上げながら、紐解きます。

2023 **11.14**
TUESDAY

会場参加 定員185名 (先着順)

開場 18:00
時間 18:30-20:00

会場 日比谷図書文化館 館内地下1階 日比谷コンベンションホール
会場参加または同時オンライン配信 (Zoom ウェビナー) 視聴

参加費無料

参加
お申込
方法

事前にウェブページからお申し込みください。(https://ez-entry.dx-mice.jp/jpf2/entry/) お申込締切：2023年11月10日(金) 17時
お申し込みは先着順とさせていただきます。
※定員を超えての申し込みがあった場合は、オンラインでのご参加をご案内します。予めご了承ください。





小説家 小川 洋子 氏

小川洋子氏は、1988年のデビュー以来、35年にわたって小説の創作に打ち込み、すぐれた長編、短編を次々に生み出してきた。これまでに、芥川賞、読売文学賞、谷崎潤一郎賞、野間文芸賞などを受賞。端正な日本語で書かれた小川氏の小説は、他言語へ翻訳する人々の想像力を喚起してやまず、2023年半ばまでに翻訳された作品は36にのぼり、合わせて37言語に訳された。小川作品は世界各地で読者の共感を呼び、文学や日本語を通じた国際相互理解の推進に大きく貢献している。



文芸評論家 尾崎 真理子 氏

読売新聞東京本社において、編集委員・文化部長を歴任したのち、早稲田大学文学学術院教授を務めた。

2016年度日本記者クラブ賞を受賞。また、著書『ひみつの王国 評伝石井桃子』（2013年、新潮社）では芸術選奨文部科学大臣賞と新田次郎文学賞を、『大江健三郎の「義」』（2022年、講談社）では読売文学賞を受賞した。



翻訳家のRose-Marie MAKINO FAYOLLE氏と



パリの書店にて

国際交流基金 (JF)

独立行政法人国際交流基金 (The Japan Foundation、JF) は世界の全地域において、総合的に国際文化交流を実施する日本で唯一の専門機関です。JFは、「文化」と「言語」と「対話」を通じて日本と世界をつなぐ場をつくり、人々の間に共感や信頼、好意をはぐんでいきます。

国際交流基金賞とは

国際交流基金賞は国際交流基金設立の翌年である1973(昭和48)年に始まり、2023年度で50回目を迎えます。

本賞では、学術、芸術、その他の文化活動を通じて、国際相互理解の増進や国際友好親善の促進に特に顕著な貢献があり、引き続き活動が期待される個人または団体を顕彰しています。

国際交流基金賞 50周年記念・歴代受賞者のメッセージ

特設サイトページはこちら

https://www.jpff.go.jp/j/about/award/50th_anniversary/



日本語



English



〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4
日比谷図書文化館 館内地下1階
日比谷コンベンションホール

お問い合わせ先

国際交流基金賞 受賞記念イベント事務局
(株式会社サンケイ会館内)
TEL : 03-3516-7813 FAX : 03-3516-7812
Email : jpff@sankeiblog.co.jp

参加
お申込
方法

事前にウェブページからお申し込みください。(<https://ez-entry.dx-mice.jp/jpf2/entry/>)
お申込締切: 2023年11月10日(金) 17時
お申し込みは先着順とさせていただきます。
※定員を超えての申し込みがあった場合は、オンラインでのご参加をご案内します。予めご了承ください。

